

第3回こまき検定 問題一覧と解説文

次の60問の中から、検定当日30問を出題します。 内の解説文を
しっかり読んで、学習をしましょう。

- 1 小牧にはキツネの伝説が多く残っています。その一つに、小牧山に住んでいたあのキツネの伝説があります。そのキツネの名前は何でしょう。

小牧山に、吉五郎きちごろうというキツネが住んでいました。子分が200匹びきもいる、この地方のキツネの親分でした。この吉五郎の伝説は、江戸時代えどにつくられて広まりました。郷土歴史家の津田つだ応助おうすけが、この話を『伝説老孤小牧山吉五郎』という本にまとめて、現在げんざいに伝わっています。小牧市民まつりのマスコットキャラクター「きっちゃん」は、吉五郎をモデルにしたものです。

- 2 小牧市のマスコットキャラクター「こまっきー」は、何を記念して誕生たんじょうしたのでしょうか。

「こまっきー」は小牧市制50周年記念事業で誕生たんじょうした、小牧市の花ツツジをモチーフにしたマスコットキャラクターです。ちなみに馬をモチーフにした「コマッキー」は小牧・桃花台とうかだいアーバンフェア'91で、小牧山をモチーフにした「こまき山」は市制60周年記念事業で、それぞれ誕生したキャラクターです。

- 3 小牧市東部の篠岡地区しのおかは、7世紀から11世紀にかけて、尾張地方おわりの窯業生産ようぎょうの中心地でした。110基き以上の窯跡かまあとが見つかり、それらは篠岡古窯跡群しのおかこようせきぐんと呼ばれています。この地域の窯は半地下式のものですが、何と呼ばれていたでしょう。

篠岡地区しのおかは、7世紀から11世紀にかけて、猿投窯さなげようとならんで尾張地方おわりの窯業生産ようぎょうの中心地でした。窯は丘陵かまの斜面きゅうりょうに細長い溝状しゃめんの穴みぞを掘り、粘土ねんどで天井てんじょうをつくった半地下式の「あな窯」と呼ばれるもので、7～8世紀には須恵器すえきが、9世紀後半からは灰釉陶器かいゆうとうきが焼かれていました。篠岡78号窯から出土した須恵器に書かれた文字が、奈良藤原京ならふじわらきやうで出土した須恵器にあった文字とよく似ており、篠岡の器うつわが遠く奈良まで運ばれていたことが分かっています。

- 4 江戸時代に小牧宿の形成が進むにつれて、宿の機能も次第に整えられていきました。藩の役人などが公用で宿泊・休けいする施設として設けられたのが本陣です。小牧宿で本陣を務めた家はどこでしょう。

尾張藩初代藩主の徳川義直の命を受け、小牧山南側にあった町場を小牧山東側とへ移転する責任者として江崎善左衛門が尽力しました。寛永2年(1625)に義直が小牧に別殿を設けようとしたとき、江崎善左衛門が自らの屋敷を提供しました。それ以来、小牧宿の本陣は代々江崎家が務めました。

- 5 野口にある関無院は、昔、尾張藩主の徳川義直が狩りをしたある動物をとむらうために建てられたと伝えられている寺です。この動物は何でしょう。

尾張藩の初代藩主の徳川義直は、猿投山で狩りをしたとき、家来に猿を弓で射るように命令したそうです。猿のお腹には子どもがいたので、家来は狩りのあと、猿をとむらう小さな草庵をつくりました。それを聞いた義直が、感激して建てたのが関無院だそうです。

- 6 昭和40年(1965)、日本で初めての高速道路が完成しました。この高速道路の名前は何でしょう。

名神高速道路は日本で初めての高速道路として、昭和40年(1965)に全線開通しました。その後、昭和43年(1968)に東名高速道路が一部開通すると、小牧は関東と関西を結ぶ交通の要衝となりました。物流を担う車両が集まるトラックターミナルが小木に完成し、倉庫も数多くできました。
※要衝・・・交通や産業などにおいて重要な場所。

- 7 藤島町では、毎年9月に社で祭りが行われています。祭りが行われる社のことを地元の人たちは何と呼んでいるでしょう。

藤島町では、毎年9月中旬に地域住民が「梵天さま」と呼んでいる社で梵天祭りを行っています。祭りの起源や歴史は不明ですが、現在も地元の人たちの手で運営されています。

- 8 北^{きたさと}里^り小学校は、かつて2つの小学校を統^{とう}合^{ごう}して北里^{きたさと}尋^{じん}常^{じょう}小学校としてつくられました。いつのことでしょう。

明治41年(1908)2月に北^{きたさと}里^り第一^{だいいち}尋^{じん}常^{じょう}小学校(元^{もと} 小^こ木^き尋^{じん}常^{じょう}小学校)と北里第二^{だいに}尋^{じん}常^{じょう}小学校(元^{もと} 尾^お張^{はり}尋^{じん}常^{じょう}小学校)が統^{とう}合^{ごう}され、北里尋^{じん}常^{じょう}小学校がつくられました。そして同年3月に高等科も置いて、北里尋^{じん}常^{じょう}高等^{こう}小学校と呼ばれるようになりました。

※尋^{じん}常^{じょう}小学校、尋^{じん}常^{じょう}高等^{こう}小学校・・・明治～第2次世界大戦がはじまる前まであった学校制度。
現^{げん}在^{ざい}の小学校1年生～中学校2年生にあたる。

- 9 小牧市が地^ち域^{いき}ブランドPRグッズとして販^{はん}売^{ばい}しているグッズのうち、最初は販^{はん}売^{ばい}していて、現^{げん}在^{ざい}は販^{はん}売^{ばい}していないものはどれでしょう。(平成30年度現在)

小牧市が地^ち域^{いき}ブランドPRグッズとして最初^{はつしう}に販^{はん}売^{ばい}していたのは、「プラスチックコップ」「タンブラー」「絆^{ばん}創^{そう}膏^{こう}」「ビニール傘^{がさ}」「手^てぬぐい」です。このうち、「絆^{ばん}創^{そう}膏^{こう}」は販^{はん}売^{ばい}を 終^{しゆう}了^{りよう}しています。(平成30年度 現^{げん}在^{ざい})

- 10 小牧四丁目(小牧小学校と小牧南小学校の校区の 境^{さかい} 辺^へり)には江戸時代に建てられた小牧御^ご殿^{でん}がありました。後に小牧御^ご殿^{でん}の一部には代官所が設^{もう}けられました。が、祖^そ父^ふがこの代官所^{つと}に勤^{つと}めていたと言われる作家はだれでしょう。

坪^{つぼう}内^{うち} 逍^{しょう}遙^{よう}の家は代々尾張藩^{おわりはん}の代官所^{つと}に役人として勤^{つと}めていました。逍^{しょう}遙^{よう}の父親は、逍^{しょう}遙^{よう}の祖^そ父^ふが小牧の代官所^{つと}に勤^{つと}めていたときに生まれたそうです。ちなみに、逍^{しょう}遙^{よう}自身は、父親が美濃太田^{みのおおた}の代官所^{つと}に勤^{つと}めていたときに、そこで生まれたそうです。逍^{しょう}遙^{よう}は、同じ尾張藩士の子である二葉亭四迷^{ふたばていしめい}とともに、日本の文学史上、江戸期^{えど}の戯^げ作^{さく}文学から明治期^{めい}の近代文学^{だんぱ}へ脱^{だつ}皮^ぴする道^{みち}筋^{すじ}を開いた先^{せん}駆^く者^{しゃ}でした。その代表作には「小^{しょう}説^{せつ}神^{しん}髓^{ずい}」や「当^{とう}世^{せい}書^{しよ}生^{せい}気^か質^{たぎ}」などがあります。

- 11 郷中にある龍徳寺の山門は、「閉めずの門」と言われています。名前の由来は、門やとびらを閉めないことからきています。どうして閉めないのでしょうか。

龍徳寺には、「たん十」といういたずら狸の話があります。「たん十」のいたずらに困っていた村人は和尚にその解決を頼みました。和尚が不動尊に祈ると、「天狗を送って懲らしめてやる」とお告げがありました。「たん十」がいたずらをする、と天狗が寺へ現れ「たん十」を懲らしめましたが、毎回山門を開けてもらうのは、面倒ということで、「門は開けたままがいい」と言ったそうです。それ以来、門は閉めないということです。
※不動尊・・・仏教の信仰対象。不動明王、お不動さんなどとも呼ばれる。

- 12 小牧市の東部地域で愛知県が中心になって大規模住宅開発を行い、昭和55年(1980)から一部地域への入居が始まり、新しい街がつけられました。この大規模住宅地は何と呼ばれているでしょう。

小牧市東部の篠岡地区は、起伏の多い丘陵地帯が大部分を占めており、一部には江戸時代後期から昭和中期にかけて盛んに掘られた亜炭鉱の跡などが残る荒地も見られる地域でした。そうした地形的な制約から、市内の他地域に比べ人口が少ない地域でした。昭和48年(1973)から愛知県が事業の中心となって「桃花台ニュータウン」の造成工事が始まり、現在では約1万人の住民が暮らしています。

- 13 県道名古屋犬山線で大山川に架かる橋を「小向橋」と言います。その名の由来は何でしょう。

この橋の北に堀尾孫助が居城としていたとされる南外山城がありました。孫助の母が戦いに赴いた息子の無事な帰りをこの橋のところで待っていたという故事から「子迎え橋」と言われました。その後、この「子迎え橋」が転じて、「小向橋」になったとされています。

- 14 平成29年(2017)に小牧市内で初めて登録有形文化財(建築物)に登録された門柱がある施設は、どこでしょう。

平成29年(2017)6月28日に、「愛知県立小牧高等学校正門門柱(旧 愛知県小牧中学校正門)」が小牧市内で初めての登録有形文化財(建築物)として文化財登録原簿に登録されました。主門柱、脇門柱各2本からなり、鉄筋コンクリート造洗い出し仕上げの三層構成、柱頂部にアカンサスの葉の装飾が付くもので、国土の歴史的景観に寄与していると評価されました。

- 15 小牧市街地と桃花台ニュータウンを結ぶ新交通システムが開通し、平成18年(2006)まで列車が走っていました。この路線の愛称は、何だったでしょう。

新交通システム(愛称：ピーチライナー)は、駅員を小牧駅と桃花台センター駅の2駅のみにおき、残りの5駅は無人駅でした。すべての駅にホームドアが設置され、転落を防止していました。桃花台ニュータウンの人口が予想していたほど増えなかったなどの理由から赤字が続き、廃線となりました。

- 16 小牧神明社にある「市神」の碑は、小牧宿で開かれていた市の由来を後世に伝えるため建てられました。この市の名を何と言うでしょう。

小牧の町が小牧山の南側(元町)から、東側の上街道沿いに移転・整備されたのにもない、いろいろな商品を集めて売る市が開かれるようになりました。この市の正式な名前は六斎市ですが、毎月一・六の日に開かれるので、一般的には一六市と呼ばれました。戦後に一六市が復活したときは、ラピオ南西の角から南に向かう通り沿いで開かれるようになったことから、この通りは一六通りと呼ばれていました。道路の使用許可等の問題により、一六市は昭和40年代後半に消滅しました。

- 17 岩崎山の南にある公園(岩崎児童遊園地)は、明治時代に開校された学校の跡地につくられました。その学校の名前は何でしょう。

岩崎学校は、現在岩崎児童遊園地がある場所で、明治10年(1877)に開校しました。その後、明治25年(1892)に岩崎尋常小学校と改名され、明治40年(1907)までこの場所に置かれました。岩崎尋常小学校は、後に味岡尋常小学校・久保一色尋常小学校と合併し、味岡高等尋常小学校となりました。

- 18 入鹿六人衆の一人として活躍した落合新八郎の祖先、落合勝正が築城したのは何城でしょう。

足利氏の末裔である落合勝正は、文明年間(1469～86)に上末城(別名森下城)を築きました。その子安親と、安親の子庄九郎は小牧・長久手の合戦で羽柴秀吉に従いましたが、敗戦にともない2人の消息は絶え、城は廃城になりました。現在、陶昌院に落合一族の墓があり、北側一帯に堀や土塁と思われるくぼみや段差が残っています。

※堀・・敵が侵入できないように、城などの周りを掘った溝。

※土塁・・敵が侵入できないように、土を盛って造られた堤防状の防御設備。

- 19 尾張三山の一つである白山は、山頂に社殿があり、ふもとの旧野口村がまつっていました。その神事で、山頂まで上げられていた動物は何でしょう。

白山社は、篠木荘33ヶ村の氏神とされ、ふもとの旧野口村がまつてきました。農耕馬を飾り、白山山頂まで馬上げを行っていましたが、戦後に途絶えてしまいました。

- 20 東田中にある三ツ山古墳群は、古墳時代のものですが、古墳はどんな形でしょう。

三ツ山古墳群は、3つの方墳で構成されていました。しかし、昭和54年(1979)に国道をひろげる工事によって北側の2つの古墳はなくなりました。現在はそのうち3号墳のみが残っており、三ツ山公園横の小山として残っています。また、小牧・長久手の合戦の時、ここに砦がつけられました。

- 21 小木地区にある宇都宮神社内にある歌碑「飛車山 ふもとに見えし 里の名はたが言いそめて こきといふらん」の短歌の作者はだれでしょう。

宇都宮神社の宮司によると、歌碑の石は、古墳のふたであるという言い伝えがあるそうです。これに刻まれている歌は、在原業平が東下りのとき、この辺りに立ち寄って作ったと伝えられている古文書(船橋新治氏蔵)に書かれているもので、「こき(小木)の地名があり、歌碑に刻むのにふさわしい」ということで引用されました。歌碑は昭和60年(1985)に建立されました。

- 22 北里地区にある「^{ふじしま}藤島」「^{たき}多気」という地名から、この^{ちいき}地域が昔どのような土地だったことが分かるでしょう。

北里地区は、小牧でも最も標高が低い^{ちいき}地域です。下水処理^{しゅりじょう}場の「^{ごじょうがわさ}五条川^{ふじしま}左岸^{がんじょうか}浄化センター」が北里地区に置かれているのもそのためです。「^{ふじしま}藤島」は、^{ごじょうがわ}五条川のかつての^{はんらんげん}氾濫原上に位置し、^お藤が^{しげ}生い茂った川中島だったことから、その名がついています。「^{たき}多気」も、氾濫原にあった「大池」（^{おお}おいけ）から名が転じて、「^{たき}大気」（^{おお}おけ）、そして「^{たき}多気」（^{おお}おけ→^{たき}）となったと言われている。

- 23 昭和6年(1931)に、小牧・^{かみいいた}上飯田間に鉄道が開通しました。このとき走っていた列車は、何を^{ねんりょう}燃料として走っていたのでしょうか。

昭和6年(1931)に、小牧・^{かみいいた}上飯田間に鉄道が開通した時、この路線は^ひ非電化路線で、キボ50形気動車という定員50人のガソリンカーが走っていました。

- 24 ^{げんざい}現在の小牧駅は、何代目でしょう。

大正9年(1920)に小牧駅ー岩倉駅間が小牧線として開通しました。このときの^{おおぞね}小牧駅が初代です。昭和6年(1931)に^{おおぞね}上飯田駅ー新小牧駅ー^{はいし}犬山駅間が大曾根線として開通すると、昭和20年(1945)、旧小牧線小牧駅が^{はいし}廃止され、新小牧駅が小牧駅と名前を変えました。これが^{げんざい}二代目。そして、^{げんざい}現在の地下式の駅が三代目となります。

- 25 ^{みなみとやま}南外山公園は、^{いせき}南外山遺跡の上につくられた公園で、^{はつくつ}遺跡の発掘調査をした際の成果をもとに、^{ひょうげん}遺跡のイメージを二つ^{どるい}表現しています。一つは土塁ですが、もうひとつは何を表現しているでしょう。

^{みなみとやま}南外山遺跡は、平成元年度に行った^{しょうさい}遺跡^{しょうさい}詳細分布^{ちょうさ}調査で発見された遺跡です。^{じょうもん}縄文時代から^{やよい}弥生時代、^{こふん}古墳時代、^{なら}奈良・^{へいあん}平安時代、^{かまくら}鎌倉・^{むろまち}室町時代にわたる^{いこう}遺構や^{いぶつ}遺物が出土しています。この遺跡には、^{かまくら}南外山城の範囲が含まれています。^{かまくら}南外山城は、いつできたのかははっきりとわかりませんが、^{ころ}鎌倉時代の終わり頃まであったといわれていて、^{はつくつ}発掘調査では^{ほり}城の堀のあとが見つかっています。公園内には、^{ひょうげん}タイルを使って堀の形を地面に^{どるい}表現し、その北側には^{どるい}土塁をイメージした土の高まりをつくっています。

- 26 小牧・長久手の合戦の際、小牧山の近くに蟹清水 砦 という織田信雄・徳川家康連合軍の砦が築されました。この砦は、元々は織田信長による小牧山城 築城の際に、信長の家臣が建てた屋敷を修復したものだと言われています。この家臣はだれでしょう。

小牧・長久手の合戦の際、小牧山に陣を敷いた織田信雄・徳川家康連合軍によって蟹清水 砦 が築かれた場所には、元々は丹羽長秀が建てたと言われている屋敷があり、その屋敷を修復して砦としました。砦の大きさは東西46間、南北61間あったとされています。信雄・家康連合軍は、蟹清水砦を北外山砦、宇多津(哥津)砦、田楽砦と結んで小牧山右翼に連なる砦群を形成して秀吉方の陣地に対抗し、守備しました。

※間・・・長さの単位。1間＝約1.8メートル。

- 27 「絹本着色文殊菩薩像」や「鑄鉄千手観音菩薩立像」など、国の史跡にも指定されている大山廃寺の遺物と思われるゆかりの品を多数保管しているお寺はどこでしょう。

江岩寺は元亀2年(1571)に創建された臨済宗 妙心寺派の寺院です。大山廃寺の付近にありましたが、明治36年(1903)頃、現在の場所に移転されました。大山廃寺の遺物と思われる品を多数収蔵しています。

- 28 明治41年(1908)に誕生した篠岡村の村役場の跡地に現在建てられているのは、何の施設でしょう。

大草村、大野村、池林村、陶村が合併してできた篠岡村の村役場は、4つ村の中心地、現在の篠岡児童館のある場所に建築されました。

- 29 名鉄小牧線には、現在、田県神社前駅があります。しかし、小牧・犬山間が昭和6年(1931)4月に開通したときは、駅名が違っていました。何という駅名だったでしょう。

名鉄小牧線の小牧・犬山間は昭和6年(1931)に開通し、現在の田県神社前駅は、当時は久保一色駅という名前でした。昭和19年(1944)から昭和40年(1965)まで久保一色駅は廃止されていましたが、昭和40年(1965)3月に、現在の田県神社前駅として名前を変え、再スタートしました。

- 30 太平洋戦争末期の昭和20年(1945)8月3日の昼、小牧は米軍機グラマンの空襲^{くうしゅう}にあい、3名の尊^{とうと}い命が失われました。この空襲で標的となった場所はどこでしょう。

太平洋戦争末期は、名古屋や春日井でも空襲^{くうしゅう}の被害^{ひがい}を受け、名古屋にあった愛知時計や春日井にあった鷹来工^{たかきこうしょう}廠も米軍による攻撃^{こうげき}の的となりました。小牧にあった塚原毛織工場は、戦争中に銃^{じゅうだん}弾の部品を作る工場へと転換^{てんかん}しましたが、米軍機グラマンの空襲^{くうしゅう}にあい、当時15才の男子中学生1名と、当時7才と4才の姉妹が亡くなっています。

※空襲・飛行機から爆弾^{ばくだん}などを落とされる攻撃^{こうげき}。

※工^な廠・軍隊が直接^{ちよくせつ}指揮・管理^{くわんり}している、武器^{ぶき}・弾薬^{だんやく}などの開発^{かいぱい}や製造^{せいぞう}、修理^{しゅうり}などを行う工場施設^{しせつ}。

- 31 昭和30年代頃^{ごろ}まで、新木津用水^{しんこつようすい}と大山川の合流する地点^{しんこつようすい}にあった、水量を調節する仕組みを何と呼んでいたでしょう。

新木津用水^{しんこつようすい}と大山川^{おほやまがわ}が二重堀^{ふたえぼり}で合流するため、特に新木津用水側の水量を確保^{かくほ}する目的で、「運天^{うんてん}」と呼ばれる、板を回転させて水量を調節する仕組みが設置^{せつち}されました。現在は、サイフォンで、新木津用水が大山川の下をくぐる仕組みに改修^{かいしゅう}されています。

※サイフォン・高さの違う二つの液面を、液体で満たした管でつなぐと、高いほうから低いほうへと流れる。この働きを利用して、川や道路などの下をくぐって水を送る方法をサイフォン（または逆サイフォン）という。

- 32 上^{かみずえ}末^{きふね}の貴船神社^{けいだい}境内にまつられていて、市の天然記念物に指定されている、樹^{じゅれいすいてい}齢^{きよぼく}推定300年の巨木^{きよぼく}といえど何でしょう。

貴船神社^{けいだい}のアベマキは尾張地域^{おわりちいき}の中で最も大きなもので、県内で2番目に太いアベマキです。高さ約25メートル、幹^{みきまわ}周り約4.6メートルにもなります。平成22年(2010)に市の天然記念物に指定されています。

- 33 小牧山には、山頂^{さんちよう} へ向かう道がいくつかあります。その中の一つに、昭和44年(1969)に整備^{せいび}された北の虎口^{こぐち}からジグザグ^{けいじよう}の形状^{けいじよう}をした坂道があります。この坂道を通して山頂へと進む道は、現在^{げんざい} 何と呼ばれているでしょう。

城の正門にあたる大手門^{おおて}から続く^{つづ}メインの道を「大手道」、裏門^{うら}にあたる搦手門^{からめて}から続く道を「搦手道」と呼び、小牧山城^よでは、南側から山頂^{さんちよう} へ直線的に向かう道が「大手道」となります。「搦手道」は山の北側から入るコースだったと考えられています。小牧山が城として使われていた時期に、どの道が搦手道として使われていたかは、正確^{せいかく}にはわかりません。現在^{げんざい}の小牧山においては、「五段坂^{ごだんざか}」と呼ばれるジグザグの坂道を通るコースが「搦手道」とされていますが、この道は江戸時代の作とされる小牧山城の絵図には描かれていないため、小牧・長久手の合戦^{なかくて}の際にはまだ無かったと考えられています。

※虎口^{こぐち}・・・城の出入り口。わざと狭くしたり、まっすぐに入れないようにしたりと、守るための工夫をしている。

- 34 平成27年(2015)に小牧市制60周年を記念^{しせい}して誕生^{たんじよう}した小牧市マスコットキャラクター「こまき山」は、ある人物が相撲好きであったというエピソードを元にデザインされました。その人物とは、だれでしょう。

「こまき山」は、小牧市のシンボルである小牧山をモチーフとしたキャラクターです。小牧山に城を築^{きず}いた織田信長^{おだのぶなが}が相撲好きだったというエピソードを元に、夢^{ゆめ}に向かって挑戦^{ちようせん}する力士の姿^{すがた}としてデザインされました。市内の幼稚園^{ちえん}や小学校・お祭りなどに巡業^{じゆんぎよう}して子どもたちと触れ合いながら、フェイスブックで情報^{じようほう}を発信したり、イベントに参加したりしています。夢^{ゆめ}に向かって挑戦^{ちようせん}する人を応援^{おうえん}していて、多くの人へ小牧市をPRするために活躍^{かつやく}中です。

- 35 藤島町^{ふじしまちよう}にある賢林寺^{けんりんじ}では、天台大師^{てんだいだいし}の命日にあたる毎年11月24日に法要が行われています。その法要のことを何というでしょう。

天台大師^{てんだいだいし}とは、中国天台宗^{しゅう}を開いた僧侶^{そうりよ}である智顗^{ちぎ}のことです。智顗の命日に開かれる天台会^えは、日本天台宗を開いた伝教大師^{でんぎようだいし}最澄^{さいちよう}が奈良の七大寺^な(興福寺^{こうふくじ}、東大寺^{とうだいじ}、西大寺^{さいだいじ}、薬師寺^{やくしじ}、元興寺^{がんぎようじ}、大安寺^{だいあんじ}、法隆寺^{ほうりゆうじ})から高僧^{まね}を招いて、妙法蓮華經^{みょうほうれんげきよう}の内容^{ないよう}について講義^{こうぎ}をしたことから始まったとされています。賢林寺^{けんりんじ}では、天台会を毎年行っていますが、いつから行われているかは不明とのことです。

- 36 「尾張^{おわり}」という名前のうまれた場所といわれている、北里地区の^{おぼり}小針にある神社の名前は何でしょう。

尾張^{おわり}神社は、旧^{きゅう}大字^{おおあざ}小針^{おぼり}にあり、古墳^{こふん}時代の豪族^{ごうぞく}尾張氏^{おわり}の祖先^{そせん}をまつています。小針村は旧名^{めい}を尾張村^{おわり}と言い、尾張氏一族^{かいたく}が開拓^{かい}した村と伝えられています。尾張神社の参道入口には、昭和15年(1940)に青年団^{せいねんだん}が建てた「尾張名^{めい}称^{しょう}発源^{はつげん}之地^{のち}」碑^ひが建っています。

- 37 約400年ほど前に、濃尾平野^{のうび}に広がるあれ地^{いる}に用水^{かろくにんしゅう}を引き、多くの田畑を開きたいと考えた人々(入鹿六人衆^{かんえい})が、寛永10年(1633)に犬山の入鹿村の南口をせき止めてため池(入鹿池)をつくり、入鹿用水が引かれることになりました。入鹿六人衆とはだれでしょう。

入鹿六人衆^{いる}は、江戸時代初期^{えど}の尾張東北部^{おわり}の農民^{えさきぜん}のまとめ役で、江崎善左衛門^{ざえもん}、船橋仁左衛門^{ふなはしにざえもん}、丹羽又兵衛^{にわまたべえ}、鈴木久兵衛^{すずききゅうべえ}、落合新八郎^{おちあいしんぱちろう}、鈴木作右衛門^{さくうえもん}の6人です。丹羽又兵衛以外^{ぶし}は武士の出ということが分かっています。六人衆の中心である江崎善左衛門は、尾張国^{おわりのくに}春日井郡小牧村^{かすがい}の郷土^{ごうし}で、その父親^{おだ}は織田家家臣^{なかせんどう}として、名古屋から中山道^{うわかいどう}へ通じる上街道^{しゆく}の小牧宿^{かい}の開^{せつ}設^つに力を尽くし、本陣^{ほんじん}を務めました。

- 38 昭和30年(1955)1月に市制^{しせい}が施行^{せこう}されました。このとき、3町村^{がっぺい}が合併して小牧市となり、県下21番目の市が誕生^{たんじょう}しました。小牧町^{あじおか}・味噌岡村と共に合併した村はどこでしょう。

昭和28年(1953)から町村合併^{がっぺい}の声が高まり、小牧町^{あじおか}・味噌岡村^{あじおか}・北里村^{しのおか}の3町村が話し合いを進めました。その後、北里村が合併を見送ったものの、篠岡村^{しのおか}が加わって小牧市^{たんじょう}が誕生^{げんざい}しました。10年後の昭和38年(1963)には北里村の一部が小牧市に合併し、現在^{げんざい}の小牧市となりました。

- 39 小牧地区にある西^{さいりんじ}林寺の山門と、その西側にある西町^{いなり}の稲荷堂は、名古屋市内の有名な寺院にあったものを移築したものです。その寺院はどこでしょう。

元々小牧山の西南にあった西^{さいりんじ}林寺は、寛永^{かんえい}6年(1629)2月の火事によって焼失しました。山門^{とびら}の扉や瓦^{かわら}には、徳川^{とくがわ}家の家紋である三つ葉^{かもん}葵^{あおい}が見られます。西町の稲荷堂は、内部^{いなり}の装飾^{そうしよく}などが華麗で貴重^{かれい きちよう}な存在で、小牧市の有形文化財^{ゆうけいぶん かざい}に指定されています。ともに、名古屋市東区^{けんちゆう じ}の建中寺^{けんちゆう じ}(尾張徳川家の菩提寺)にあったものを移築したものです。

- 40 南^{みなみ}外山^{とやま}の八幡社^{はちまん}の参道には朱塗り^{しゅぬり}の鳥居があります。広島県^{いつくしま}の厳島神社^{いつくしま}や福井県^{ふくい}の気比神宮^{けひ}の鳥居と形が似ていますが、何という鳥居でしょう。

八幡社^{はちまん}の二の鳥居は、小牧市内でも、4例しかないめずらしい形の鳥居で、両部^{りょうぶ}鳥居といえます。2本の本柱の前後にそれぞれ低い控え柱^{ひか もう ぬき}を設け、貫で連結したものです。広島県^{いつくしま}の厳島神社^{けひ}や福井県^{ふくい}の気比神宮の鳥居と形が似ています。

- 41 上^{かみずえ}末地区には、小牧・長久手^{ながくて}の合戦^{かつせん}で非業^{ひごう}の死をとげた落合^{おちあい}一族を悼み建てられた祠^{ほくら}があります。この祠は何と呼ばれているでしょう。

小牧・長久手^{ながくて}の合戦^{かつせん}の後、いつの頃^{ころ}からか、地元の人たちが、高台^{ほくら}に祠^{ほくら}を建て、周りにツツジの木を植えてまつるようになり、おつつじ様^よと呼ばれるようになったといわれています。元は、もう少し南に位置していましたが、東名高速道路^{げんざい}の工事により現在^{うつ}の場所に移されました。

- 42 小^こ木小学校の東側にある真通寺^{しんつう じ}は、小牧・長久手^{ながくて}の合戦^{かつせん}で戦死したある武将^{ぶしょう}をとむらうために建てられた庵^{いおり}が元になって創建^{そうけん}されました。この武将とは、だれでしょう。

小牧・長久手^{ながくて}の合戦^{かつせん}で羽柴秀吉^{はしばひでよし}方に加わり、長久手での戦いで戦死した森長可^{もりながよし}をとむらうため、長可の妹がこの地に建てたのが「鬼蔵庵^{きぞうあん}」です。明治13年(1880)に、現在^{げんざい}の一宮市で廃寺^{はいでら}となっていた真通寺^{しんつう じ}をこの地に移し、それ以降^{いこう}、真通寺^{ごう}と号を改めました。長可は、織田信長^{おだのぶなが}に仕えたことで有名な森蘭丸^{らんまる}の兄で、現在の岐阜県可児市^{ぎふ かに}にある金山城^{かねやまじょう}の城主でした。槍^{やり}の名手であった長可は、その勇猛^{ゆうもう}な戦いぶりと武蔵守^{むさしのかみ}と名乗っていたことから鬼武蔵^{おにむさし}と呼ばれていました。

- 43 天正12年(1584)、小牧・長久手の合戦で、徳川家康と対峙した羽柴秀吉はどこに拠点を置いたでしょう。

羽柴秀吉は、大坂城、岐阜城、犬山城、楽田城へと軍を進めました。家康が小牧山城に入ると、秀吉は楽田城に入り、互いに相手の様子うかがったまま持久戦となりました。長久手での戦いが起きた後、秀吉と家康は和睦し、小牧・長久手の合戦は終わりました。

- 44 小木地区にある宇都宮神社にまつられている神様は、何でしょう。

宇都宮神社は、「1504年に織田宰相が越前国から移住のときに、下野の国宇都宮を遷して氏神とあおいだ」と伝えられています。まつられている神様は、大名持神、天照皇大神、少彦名神です。

- 45 昭和30年(1955)に小牧市ができた時、市内には何校の中学校があったでしょう。

昭和30年に、小牧町、味岡村、篠岡村が合併して小牧市になりました。そのときにあった中学校は、小牧中、味岡中、篠岡中の3校でした。北里村には北里中がありましたが、北里村の一部が合併して現在の小牧市になったのは、昭和38年(1963)のことです。

- 46 市内で一番高い北東山間部から大山川が流れる大山・野口地区で、6月初旬から中旬にかけて流域で見られるのは何ホタルでしょう。

大山川源流近くはホタルの里と呼ばれています。毎年6月上旬から中旬にかけて、ゲンジボタルが飛び交う風景を楽しむことができ、市民の心をいやしています。

- 47 小牧市が販売しているこまきプレミアム商品券には、共通券と専用券があります。どの取扱加盟店でも使える共通券は、どのような名前でしょう。

こまきプレミアム商品券には、全取扱加盟店で使える「共通券」(えーなも券)と、小規模取扱加盟店のみで使える「専用券」(いーなも券)があります。

- 48 愛知県の焼き物の産地としては瀬戸が有名ですが、小牧でも明治時代後期に「小牧焼」といわれる陶器が作られるようになりました。この「小牧焼」を始めた人はだれでしょう。

明治時代後期に小牧町の齊藤圀次郎が、焼き物に大変興味を持っており、多治見で陶器を作る技術を習得しました。その後、明治39年(1906)頃から「小牧焼」と言われる茶碗、皿、鉢、徳利などの日用陶器類が盛んに製造されるようになりました。「小牧焼」は、主に名古屋や岡崎方面で販売されました。

- 49 篠岡地区には、小学校5校(陶小・桃ヶ丘小・篠岡小・大城小・光ヶ丘小)があります。この中で創立が一番古い小学校はどこでしょう。

開校した年は、次のとおりです。篠岡小(明治42年(1909))・桃ヶ丘小(昭和51年(1976))・陶小(昭和60年(1985))・光ヶ丘小(昭和63年(1988))・大城小(平成2年(1990))。

また、中学校は3校あり、開校した年は、次のとおりです。篠岡中(昭和22年(1947))・桃陵中(昭和57年(1982))・光ヶ丘中(平成2年(1990))。

- 50 小牧の市立中学校で、創立が一番新しい学校はどこでしょう。

光ヶ丘中学校は、桃花台ニュータウンの建設にともない、人口が増えたため、1990年(平成2年)に新たに開校しました。

- 51 野口、林、池之内、上末、大草などの篠岡地区には、弘法大師をまつる弘法堂が多く見られます。弘法大師の命日である4月21日前後には弘法様のお祭りとしてにぎわいます。では、弘法大師と言われた人はだれでしょう。

弘法大師とは、真言宗を開いた僧侶である空海のことです。小牧市内には空海をまつる弘法信仰が古くから受け継がれています。特に篠岡地区は弘法堂が多く見られる地域です。

- 52 米野小学校から南へ900メートルほどのところにある橋の名前は、天 正 12年(1584)の小牧・長久手の合 戦^{なかくて かつせん}に由来があります。今も地名が残る、この橋の名前は何でしょう。

小牧・長久手の合 戦^{なかくて かつせん}で、織田信雄・徳川家康^{おだのぶかつ とくがわいえやす}連合軍の兵士が羽柴秀吉^{はしばひでよし}軍の動きを知らせるため小牧山に向かっていたところ、この地で鉄砲^{てっぽう}で撃たれて死んでしまいました。そのとき、「敵^{てき}をうたずに死ぬのは残念」と言い残したことから「不発橋^{うたず}」という名前がついたという言い伝えがあります。

- 53 明治39年(1906)、全国町村合 併^{がつぺい}で小牧町、味岡村、篠岡村は、どの郡に属^{ぞく}していたでしょう。

現 在^{げんざい}の小牧市の元となった小牧町、味岡村、篠岡村、北里村のうち、小牧町、味岡村、篠岡村は東春日井郡に、北里村は西春日井郡に属^{ぞく}していました。江戸時代の村絵図によれば、小牧市には小牧村など36村があり、小字^{こあざ}が908あったことがわかります。「小牧〇丁目」のような町名は、昭和の中頃^{ごころ}から変 更^{へんこう}されてきたものです。

- 54 江戸時代末期^{えど}、小針入鹿新田^{おばりいるかしんでん}に栗崎常慶^{くりさき}という小 児科^{しょうに}の名医がいました。小児病^{みょうやく}の妙 薬^{おわりめいしよずえ}として、「尾張名所図会^{おわりめいしよずえ}」にも紹 介^{しょうかい}されている薬は何と言うでしょう。

栗崎家は代々の医者^{くりさき}の家で、栗崎の保童丹^{ほどうたん}(活児丹)は、小 児病^{しょうに}の妙 薬^{みょうやく}として、「尾張名所図会^{おわりめいしよずえ}」にも屋敷^{やしき}の絵地図とともに紹 介^{しょうかい}されています。中でも、栗崎家の9代目常慶^{あんせい}は安政4年(1857)に尾張徳川家^{とくがわ}の薬用掛^{にんめい}に任 命されるなど、名医として名が広く天下に知られることとなりました。常慶の代には、門前^{かんじゃ}には早朝から患 者^{はたご}が列をなし、遠くから来た患者用に旅籠^{はたご}が近く^{けん}に3軒も並ぶほどだったそうです。

※旅籠・・食事付きの宿。

- 55 全国的に有名なブランド^{どり}鶏になった名古屋コーチンは小牧でうまれました。池^{いけ}之内^{のうち だいせんじ}の大泉寺には、名古屋コーチンを作り上げた人の墓^{はか}があります。だれの墓でしょう。

明治のはじめ、池^{いけばやし}林^{おわりはんし}村で元尾張藩士^{かいふそうへい}の海部壮平^{まさひで}と弟^{にわとり}の正秀^{まさひで}が、中国から入手したバフコーチンと岐阜^{ぎふ}地鶏^{じどり}を交配して産まれた^{にくしつ}鶏^{にわとり}からつくりあげたのが名古屋コーチンです。肉質^{にくしつ}がよく、今では日本を代表する^{にわとり}鶏^{にわとり}の品種となりました。

- 56 小牧市と隣^{となり}り合っている市町村は、いくつあるでしょう。(平成30年^{げんざい}現在)

小牧市と隣^{となり}り合っている市町村は、春日井市^{かすがい}、犬山市、江南市、岩倉市、北名古屋市、西春日井郡豊山町^{とよやま にわ}、丹羽郡大口町の7つです。(平成30年^{げんざい}現在)

- 57 昭和26年(1951)頃^{ごろ}、伴徳弘^{きのえね}が甲子座跡地^{ざあとち}(現在^{げんざい}の小牧二丁目)の北東に開業した劇場^{げきじょう}の名は何でしょう。

大正期に小桜座^{こざくらざ}(現在^{げんざい}の小牧)と甲子座^{きのえね}(現在の小牧二丁目)が小牧町の南北にでき、庶民^{しょみん}の娯楽^{ごらく}の場としてにぎわいました。昭和12年(1937)には、小桜座^{みわ}を買い取った三輪氏^{みわ}が、小牧劇場^{げきじょう}を開業して映画^{えいが}を上映しています。昭和26年(1951)に甲子座跡地^{ざあとち}の北東で営業を開始したカムカム劇場は、映画^{えいが}の上演を主に、時折奇術^{きじゅつ}なども行われていたそうです。その後、昭和42年(1967)に中日本興業^{こうぎょう}と合併^{がっぺい}、1階^{はいぎょう}をひかり劇場、2階^{はいぎょう}をアサヒ劇場として営業^{えいぎょう}を続けましたが、昭和47年(1972)に廃業^{はいぎょう}しています。

- 58 小牧市のシンボルである小牧山の高さは何メートルでしょう。

市街地の西側にあり、85.9メートルの高さがあります。江戸時代、尾張徳川家^{えど}が直接^{おわりとくがわ}治める土地^{ちよくせつ}となって開発されずに守られていたため、良好な状態で城の跡^{あと}などの遺跡^{いせき}が残っていました。最近の発掘調査^{はくくつ}で織田信長^{おだのぶなが}が築いた3段^{きず}の石垣^{いしがき}などが発見されました。

- 59 小牧五丁目の小牧^{しんめいしゃ}神明社の秋祭は、江戸時代から小牧^{えど}宿^{しゆく}の祭の一つとして、春の神明社の小牧祭、夏の秋葉祭と並び、秋の馬祭として親しまれてきました。どんな奉納^{ほうのうしんじ}神事が行われているでしょう。

秋の馬祭として親しまれてきた秋祭は、小牧^{しゆく}宿^{とう}の各地区が馬の塔(オマント)を出して奉納^{ほうのう}するものでした。農耕馬^{のうこうば}の減少^{げんしょう}とともにオマントの奉納^{すい}は衰退^{たい}し、最近では、東^{ひがしまち}町の五本^{ほん}棒オマントだけになりました。五本棒オマント奉納神事は、平成16年(2004)に市の無形民俗^{みんぞくぶんかざい}文化財に指定されています。

- 60 小牧の発展のためには、三大高速道路(東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道)を小牧市内で合流させることが必要だと考え、国と交^{こう}渉^{しょう}し、小牧インターチェンジや小牧ジャンクションの完成^{きよ}に寄与した小牧市の元市長はだれでしょう。

小牧市の第2代市長^{かんべしん}神戸真^{はってん}は、市内で三大高速道路を合流させることがこれからの小牧の発展^{ちよくせつこうしょう}に必要だと考え、国との直接交^{ちよくせつこうしょう}渉^{しょう}を行った結果、昭和40年(1965)には小牧インターチェンジが、昭和47年(1972)には小牧ジャンクションが完成しました。その他にも工場の誘^{ゆう}致^ちなどにも尽^{じん}力^{りよく}し、ねらい通り、小牧インター周辺には、多くの工場やトラックターミナルもでき、人口も増加しました。現^{げんざい}在^{ざい}では、名古屋高速とも結ばれ、交通、物流^{ようしゅう}の要^{やく}衝^{わり}としての役割を果たしています。

出題に関わる参考文献

- 『小牧市史』
- 『小牧の文化財』
- 『小牧叢書』
- 『小牧散歩』
- 『小牧の文化財散歩』
- 『小牧の寺院』
- 『小牧の神社』
- 『小牧の文化財地図 訪ね歩きマップ』
- 『社会科副読本 こまき』
- 『社会科副読本 小牧』
- 『北里仏教会・寺院のあゆみ』
- 『こまきプレミアム商品券紹介ポスター(小牧市商工会議所発行)』

『小牧市地図』

『遺跡解説板(南外山公園)』